



## 皆さんと共に親睦を 会長 千田曠曉

2009年を迎え会員ご家族、賛助会員、関係各位様には益々ご健勝でお過ごしのことと存じます。

我が県人会は創立より親睦を旨として活動しております。団体はいつの世でも原点を振り返りながら「会員の為の会」でなければならないと思います。

先の定期総会で会長職10年を節目として引退し、新しい指導者のもと新しい活力を生み出す事が出来れば

と、打診致しましたが受けられず、前役員と共に続投となりました。

引受けた以上は、会発展のため「誠心誠意」努めますが、会員一人一人のご意見やアイデアなどドシドシお寄せ頂き、皆さんと共に親睦を原点に会発展のために頑張る所存です。以前にも増してご指導ご鞭撻の程を賜りたく思います。

## ブラジル県人会定期総会



1月18日(日)午前11時から、第50期岩手県人会定期総会が行われた。はじめに多田マウロ副会長の司会により、先亡者へ1分間の黙祷。千田会長は開会の挨拶で昨年一年間の諸行事・特に創立50周年記念式典が会員皆さんの支援・協力により無事行われた旨感謝の言葉があった。

多田副会長を議長に選出、議題が進められ藤沢書記より、2008年度事業報告、昆野会計から収支報告、大志田監査役の所感があり承認された。

続いて会長から09年度事業計画、予算案、理事会提案では年度会費の据置(R\$75)5月の杉村公使の墓参ツアー、9月に50周年答礼母県訪問団、定款改正等について提案があった。一般質疑のあと役員改選では、千田会長は既に5期10年を締め切り引退したいと申入れていたが、次期連名候補や会長候補者が無く、会員総意で前役員の続投が承認された。

新年会は高橋昭二郎相談役の音頭で乾杯。会員自慢の持ち寄り料理で親睦交流を図りながら、名酒「南部美人」で宴会を盛り上げ、カラオケなど夕刻まで楽しんだ。参加者は90名を越えていた。

## 忘年会・交流懇親会



12月14日(日)正午から2008年忘年会と、第39回会員交流懇親会が行われた。最初に先亡者への黙祷があり、千田会長ら年間行事や、創立50周年式典等が会員皆様の協力により無事行われ感謝の言葉があった。また、09年度事業行事について、役員会案に加え行事内容の提案を募った。

伊藤春野長老の乾杯の音頭で昼食、ビンゴでは心を弾ませ、また、ケーキを囲んで9月から12月生まれの誕生祝いがあり、全員で記念写真に納まる。カラオケなど楽しいひと時を過ごした。参加者90余名。

## 我等が殿様「南部利昭」氏急逝

1月7日、県人会名誉総裁でもある「南部利昭」氏(行年73歳、旧南部藩第四十五代当主、靖国神社宮司)が虚血性心不全で急逝された。南部氏は、昨年の50周年に賛助会慶祝ツアー団長として来伯。過去にもロータリー活動で2回ブラジルを訪問され交流を頂いている。母県訪問の際には東京から駆けつけて交流して頂いた事もあった。また、県人会名誉総裁にも快く応じて頂き、気品があり誰からも好かれ気さくな方であった。県人会には50周年に書いて頂いた色紙「報恩感謝」が殿様の写真と共に飾ってある。殿様の色紙「来て見れば、ここもふるさと南米(なんぶと読む)かな」と故郷を思う方でもあった。式典の挨拶で「ブラジルと岩手が互いに友好親善を深めていく事を祈ると述べた」この言葉を胸に、殿様を偲びながらご冥福をお祈り申し上げます。



## 神戸移住収容所児童の感想文 (1)

戦前の移住児童達が神戸移住教養所で書いた作文集が横浜移住センターで見つかり、JICAから岩手県人6名の調査依頼があった事を会報156号(2008年2月発行)でお伝えしましたが、パウロ市在の佐々木久六さんが、移住4年余で亡くなった妹キンさんの作文を是非みたいとの希望を叶え、県人会で直接横浜のJICAをお願いしたところ作文6名分(千葉勇太郎、安陪儀郎、柴田眞吉、伊藤ノリ、小澤照子、佐々木キン)の送信がありました。

紙面の許す限り紹介します。尚JICAから「子供たちの百年・ブラジルに渡った少年少女は、今!」と題したビデオの贈呈がありました。生存者で取材に応じられた10名の移住当初の証言や現在の生活状況が描かれています。ビデオをご覧になりたい方は県人会にDVDがありますので申し込み下さい。



兄の佐々木久六さん

佐々木 キンさん(当時尋常小学6年)昭和10年5月拓務時報に掲載(原文のまま)

「ブラジルへ行くまで」私の家では一家そろってブラジルへ行く事になった。其の時親類の人達は行かないがよいと反たいたけれどお父さんは其の親類の人達のいふ事をふり切って行く事になりました。三月に三番目の兄さんがサントスへ行きまして。

二番目の兄さんは行ってから、もう六年になります。私達はその二人の兄さんたちがよびよせてくれ、ぼこそ行くのです。さうでなければ家のお母さんは一人の姉さんをおいてブラジルへは行かないのです。其の姉さんにはもう子供が二人もあるのです。

私達が停車場からたつ時はみんなが見送りをしてくれました。其の見送りをした人達が汽車で神戸へ来る時は泣いてをりました。私のおかさんも目に一ぱい涙をためてをりました。萬歳をさげぶ人や「たっしやで働いて帰って来い」といふ声を後にしてなつかしい故郷を去って来ました。そして途中で東京見物をして又汽車に乗って神戸へ着きました。神戸の教養所に来てすぐ目の検査をしました。が、家では一家そろってパスしました。

神戸の教養所には学校もあって色々ブラジルへ行くについてためになることを先生が教えて下さいます。私達は此の先生とお別れする事はつらい事ですが仕方ありません。

それは私ばかりでなく教えられた生徒は皆さう思っているだろうと思ひます。私はあちらへ行つたらどうしてでも働いてお母さんと私と帰って来るつもりです。其の時は先ず先生と姉さんにあふつもりです。先生あと五、六年お丈夫でゐて下さい。(旧漢字や、仮名も旧ひらがながあります)

☆ 佐々木久六さん[88歳]は、亡き妹の作文を読んで「71年前の亡妹の作文」として、ニッケイ新聞11月7日付け読者欄に掲載。併せて読んで下さい。妹キンさんは着伯4年余で病気のため無くなっております。戦前移住者はキンさんのように二度と故郷の地を踏むことなく亡くなった方々を思うと切ない思いでいっぱいです。

## 訪問者



鈴木一夫氏(盛岡出身、盛岡市議会議員)12月29日午後、帰国日に来館。空港へ向うまでの時間懇談した。視察地はクリチーバ、リオ、イグアスーなど。



佐々木勝男夫妻(紫波町赤沢出身、神奈川県川崎市在)12月28日11年ぶりに、初孫が生まれた事からお祝いに再来伯。娘さん夫婦は日本語教師。



鈴木章氏(盛岡出身、芙蓉総合リース香港勤務)12月1日來館し交流懇談。鈴木氏は香港県人会の幹事を担っている。休暇をブラジルで過ごしたいと、パンタナール、サンパウロ市内、イグアスー、リオを訪問した由。ベレンやペルーも予定していたが、岩手の母親の急病で急遽15日リオから帰国された。

## Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界16カ国  
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる  
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。



株式会社南部美人  
岩手県二戸市福岡字上町13  
TEL 0195-23-3133  
FAX 0195-23-4713  
E-mail:sake@nanbubijin.co.jp  
ホームページ毎日更新  
http://www.nanbubijin.co.jp  
●お酒は20歳になってから

## 南部美人を飲めるサンパウロの店

JUN SAKAMOTO TEL 3088-6019  
A-1 TEL 3145-1833  
BUDDHA BAR BRASIL TEL 3044-6181

SHINTORI 新鳥 TEL 3283-2455  
KINOSHITA 木下 TEL 3849-6940  
SHAYA TEL 3079-5020

らーめん和  
阿 畔  
藍 染  
らん月

TEL 3145-1833  
TEL 3145-1833  
TEL 5080-3300  
TEL 3085-6915

- 12月3日 県総合政策部製作推進課の菅野さんより「いわて希望ネット」について受信。返信す。
- 5 岩崎ニューヨーク岩手県人会長あて、14日行なわれる10周年懇親会へメッセージを送信。
- 6 青空教室(自閉症児童、三枝たか子さん指導)発表会に会長夫妻出席。
- 7 定例役員会 議題一忘年会、09年度定期総会・役員改選、新年会、行事予定など。
- 8 藤村光夫副会長は3週間の入院生活から午後退院された由。
- ☆ 金ヶ崎町広報誌11月号受領。
- ☆ 県連定款改正委員会に会長出席。
- 9 総領事公邸で開かれた天皇誕生祝いに会長出席。
- 14 2008年度忘年会、第39回会員交流懇親・誕生会あり。90名ほどが参加。
- 19 県連代表者会に会長出席。後刻行なわれた同忘年会に会長、昆野会計出席。
- 23 文協で行なわれた西林万寿夫総領事送別会に千田会長夫妻出席。会報161号や年賀状(忘年会写真入)を国内外へ発送。
- ☆ ポルトアレグレの藤沢晴巳氏来館。図書31冊の寄贈あり。
- 26 花巻の渡辺勉氏より「岩手県の10大ニュース」記事送付あり。
- 31 世界一周中でポルネオ島滞在中の渡辺昌也、真里さんから年

- 末の挨拶受信。1月11日に帰国との事。香港県人会と連絡を取りたいと申入れあり。
- 1月1日 ※ 遠野市の佐々木栄洋氏から新年に向けてのメール
- 4 鈴木一夫盛岡市議員から、帰国とお礼のメール。
- 5 山田町の松本定次郎氏逝去の報に松本家へ弔電を送信(葬儀は7日との事)。
- ☆ 留研生OB会による本年度留研生への講習会開校式に会長出席。
- 7 飛鳥克巳北京県人会長より、礼状と新年の挨拶あり
- 8 国際課北柄玲子さんより南部利昭氏(県人会名誉総裁)は、7日急逝されたと新聞記事受信。靖国神社、桜山神社(盛岡)へ弔電を送信。
- 10 定例役員会開催。
- 11 会長と畑氏リオへ出張、鹿田氏をビデオ取材。
- 13 靖国神社の落合雅義氏(人事課長)より、南部利昭氏の葬儀を無事に済ませた旨電話あり。
- ☆ 留学生武田彩さんの必要書類を県へ発送。
- 18 第50期定期総会・新年会開催。約90名余が参加。千田会長6期目の続投が決まる。
- 26 西館世公ピラポ県人会長、JICA主催南米日系農協セミナー出席のため来伯。来館し懇談。
- 30 研生講習会閉校式に会長出席。

## 寄付・寄贈(1・2月) 敬称略

50R\$ 中島一郎、門脇一夫、40R\$ 小崎敬子(手芸教室)、お茶菓子 佐々木憲輔・図書利用者多数、日本語教科書40冊 松本トミ、七千円 千田功平。

## 賛助会費納入者名(海外・敬称略)

08年12月 桑島治行(08年度)、  
09年2月 及川光夫(08年度) 2009年度分 吉田重雄、吉田英子、佐々木栄洋、松本トミ、千田功平、高橋量平、武藤千賀子、鈴木直志、東根千万億、高橋典克、坂本洋、久慈浩介、一戸和、千田良子、和賀武耕、岩船信一、沼崎喜一、伊藤栄喜、紀タズ子、菅原圓雄、高橋洋介、(2月19日まで)

## 「図書寄贈」

12月 小野誠一 65冊、三原正人〔日本〕17冊、原口貴美子 10冊、藤沢晴巳 31冊、  
09年1月 湯浅敏勝 62冊、倉谷和慶 10冊、佐々木昌文(広島県) 3冊、安田稔 35冊、細谷みなこ 16冊、藤島一雄 5冊、  
2月 服部葉子 38冊、井上秀子 35冊、細川勝政 24冊、中川玉恵 4冊(2月5日まで)

## 県人会図書利用

12月 265名 1077冊  
1月 243名 985冊



「ふるさと図書蔵書1万5千冊突破！」県人会図書室はコロニアの読書家に親しまれているが、日本や読者からの寄贈により蔵書は1万5千冊を超えた。図書室の新聞記事が掲載される度に、また新しい読者が増え、遠くはサンパウロ州奥地、ミナス、ブラジリア、パラナ、ナタールなどから訪れ利用されている。改めて、図書寄贈者や読者の皆様方にお礼を申し上げますと共に、お友達にも広めて頂き図書のご利用をお願い致します。尚、図書貸出は無料で、冊数は無制限、期限は読み終わったら返済して頂く事です。

## 会費納入者名(12~2月) 敬称略

2009年度会費は総会で据置され75レアイスと決まりました。

12月 八重樫健三、田村浩二、久保ジョージ、小田久馬、佐藤ナミ、高橋孝夫、清水ルイザ、三枝たか子(09年度)、陳文財(賛助、09年度)、山田幸孝(賛助)、巖岩毅、児玉剛一マウロ、切田昌美、梅田清、藤本スエジアンドレ、栗山ナガコ(賛助)、

09年1月 島崎清美(新・賛助、北海道出身)、千田曠暁、山道慶大、小崎敬子(賛助、茨城県出身)、寒河江良廣、高橋慶一、藤村光夫、昆野ワシントン昭仁、昆野トシ子、野村みつこ、虎岩昭子、浅見マリア、及川秀義、渡辺美智子、岡田菊男、加納ナカ、名原孝蔵、手島多田良子、手島おさむジョージ、伊藤春野、藤沢裕、千田輝海、高山フジ、佐藤ナミ(賛助)、小原アヤ、石川百合子ジュリア、小畑ともこ、武田春雄(賛助)、畑勝喜、

2月 佐藤キミ(賛助)、石井紅夫(賛助)、和賀希耕、佐々木進ジョゼリス、佐々木憲輔、佐々木憲次、千葉直義、前川鮎ノ助、千葉和枝(2009-2012)(2月20日まで)

## 逝去の報

★ 松本 定次郎 氏(行年79歳) 逝去 県人会賛助会員で山田町在の松本氏は、闘病中のところ1月3日早朝逝去。葬儀は7日行なわれた。松本氏は数回ブラジルを訪問、県人との交流はじめ、各国の人々とも交流を計っていた。心からご冥福をお祈り致します。

★ 横山 成雄 さん(行年55歳、藤沢裕書記の甥)、7月1日逝去の知らせが藤沢氏からありました。

★ 藤木てる子 さん(行年80歳)は1月18日早朝急逝されました。尚、49日法要は2月28日(土)午後2時からサンジョアキン街の仏心寺で行われます。故人のご冥福を祈り申しあげます。

## 父娘二人旅

文 畑 勝喜・写真 畑 カリーナ 真樹



## 「ジャパンレール・パス」

私たち外国に住む者にとってJRレール・パスの存在は、便利だし経済的で大変有難いものである。ところが、今回郡山で一ノ関に行くべく新幹線に乗換えた時の事。私達の切符を見ていた車掌は、やおら「お客さん！困りますねこの指定券は昨日の日付けじゃないですか！！！」

「昨日のものと言われてもねえ...」と私。レールパスは日本に到着してすぐ、東京駅のみどりの窓口で受取ったもので、係員は切符を日にち別に分けて、一日分ずつ別々のカバーに入れて呉れた。やはり日本は親切な国だなア...と感謝したものだ。黙っていると、この新幹線の車掌氏、いよいよ声高になってきそうな様子なので、私はポケットからレールパスの表紙を出して見せた。すると車掌氏は「あっ、これは外国からのお客様でしたか、どうもご苦労様です」と態度が一変した。「今日は、列車も空いておりますのでこの席でこのまま一ノ関まで行って下さい。本日の日付けで指定券もお作りしたので...」とか云って敬礼をし、隣の車両に移っていった。もし、日本に住んでいる日本人（一寸変な表現だが）なら、この場合咎めだてをし、外国から来た客ならば、同じ席に座っていても良いとはあまりに理不尽ではないだろうか。間違った日付けの切符を渡しても（確かに受取った切符をその場でいちいち確認しなかった事を反省）感謝される人。その切符の事で言いがかりを付け様とする人。（本人は至って職務に忠実だったのに違いないが）同じJR職員でも様々である。

ブラジルに長い年月暮らしている日系人諸氏よ。こういう場合は、口論では我々には勝目が無い事を知るべきだ。この車掌氏もそうであったが、何しろ今の日本語（と云われるシロモノ）でまくし立てられても、その半分も理解出来れば、あなたの現代日本語に対する理解力は大したものだ。何しろ話している言葉の半分近くは外来語（カタカナ語）なのだから。日本語はいつからこんな乱れた言葉になったのだろう。あの美しい響きを持った日本語は一体どこへ行ってしまったのだろうか。

## 「一ノ関でようやくラーメンを」

私も娘も、いや我が家全員がメン類好きである。この旅行も行く前からあそこへ行ったらあれを食べ様と娘と決めていた。先ず小倉の焼うどん、博多ラーメン、沖縄のソーキそば、ナドナド。それも出来れば屋台で。「畑さん何が食べたい？」娘がすかさず「ラーメンが食べたいんですけど...」招待して下さる方は全部言わず「なんにもラーメンなんて... もっと美味しい物があるから、私にまかせなさい」何処へ行っても



ようやく口に出来た一ノ関のチャーハン付ラーメン

こちらの望みが叶えられず、父娘して少々欲求不満気味であった。

一ノ関の駅前広場に出たところで見付たの

はラーメン屋ののれん、二人はほとんど同時に「この店に入ろう！」となったのれんをくぐったのであった。メニューを見て、父娘で選んだのはチャーハン付きラーメン。ラーメンを食べに入った店なのにチャーハン（やきめし）付きとなれば、何となくその方が得をした気分になるのはわたくしの心がイヤしい証拠か。日本に来て、熱望していたラーメンを初めて食べたのが一ノ関であった。美味しくて、何よりも安く本当得をした気分です店を出た。私「すいとんも好物で母の作る「すいとん」は盛岡仕込で絶品であった。盛岡へ行ったら是非本物の「すいとん」を食べてみたいと思った。

## 「一ノ関を訪ねて」

私の母方の祖父は相沢徳兵衛と云い、日本ハリストス正教会（本山は東京神田のニコライ堂）の山目教会の神父を務めていた人物である。

私の頭の中にある山目教会の風景は、磐井橋の上から見ると畑の向こうに大きなクルミの木があり、そこに木造二階建ての大きな教会が見えていた。その畑の中に銅谷郵便局と、その後には昼になるとボーッと間の抜けたサイレンの鳴る工場があった。駅前から乗ったタクシーの運転手は「お客さんの云う十字路はここなんですがね」と云って車を道端に止めた。当時、教会の広大な敷地は、平泉へ行く道と巖美溪へ行く道の十字路にあったが、今、辺りを見回すと、一ノ関合同庁舎の立派な建物があり、びっしりと



山の目にある相沢家の墓

店が建ち並び、とても昔の面影はない。長居は無用とタクシーを今晚泊まる巖美溪温泉に走らせたのだった。

## 「私事で恐縮ですが」

この父娘二人旅に登場している娘が、去る2月14日華燭の典をあげました。新郎はサンパウロ州立大学（日本の東大とは姉妹校）の同級生で都市総合建築学科を卒業。現在グラフィックデザイン会社を経営。10年来の恋を实らせての結婚であった。この悠長さはやはり岩手の血であるのかも... 亡き妻も天国で祝福していたに違いない。

只今メキシコ・パナマに新婚旅行中。

以下次号へつづく



や はちょう  
矢巾町

各種資料・統計情報

(矢巾町ホームページより)

矢巾町は、昭和30年に徳田村、煙山村、不動村が合併し矢巾町となった。町は盛岡市に隣接し人口2万7千人余、面積67.28 k㎡。また県都に近い事から流通センター、西部と下田に工業団地や県立産業技術短期大学があり活気ある町である。

特産は南昌さんざジュース、南昌さんさそば、万年健、椎茸クッキー、椎茸まんが名物で、観光イベントには徳丹城桜まつり、南昌山(848m)山開き、矢巾町夏まつり、矢巾町



秋まつり、スミ付けまつりなどがあり、南昌山麓には「南昌の湯」と呼ばれる鉱泉「矢巾温泉」がある。



とくだんじょうさくら  
徳丹城桜まつり



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース 2009年2月発行 162号